

之をすゝめる。(藤田)

○朝鮮の聚落後篇

朝鮮總督府 昭和十年三月三十日

朝鮮總督府の生活狀態調査の其八として囑託善生永助氏の調査研究にかゝる聚落編の後篇が出た。これは久しく待望のものであるだけに善生氏の精進勇猛に自から畏敬の念を生ずる、本篇は同族部落の調査であつて、同本同姓のものが一部落又は一地方に集團住居せるものゝ狀態であるが、善生氏の云はれるやうに世界に稀に存在するものであらう、蓋し東洋文化の發展した農耕民族が黃河、揚子江の大平原に移住開墾をはじめた有史以前から、多くのこれらの民族から派生した新民は或は北に或は西に或は東に移動したが、その移動の最初から既に家族的であつた、それがある地を占據定住するや、いよ／＼深く土に親み、同族相より相助けて、子孫の長養を計つた、こゝに所謂東洋儒教や道教の根柢が發生した、本書はさうした太古からの民族移動と定住との關係を明に指示する、第一、姓氏の變遷と同族部落 第二、名族興廢と同族部落 第三、歸化氏族の同姓部落 第四、同族部落の分布、第五、同族部落と儒教勢力及び地方に於ける儒林、兩班儒生の分布 第六、特色ある同族部落、結論から成立し、菊版九九四頁の本文と數百の寫眞版を附加した尨大な報告となつた、善生氏の努力もさることながら印刷製版の方々も勉めたものだとはいはざるを得ない。

雜報

いづれにしても姓氏を重んずることは東洋人倫道德の基調である、我等はかうした研究が日本の内地に於ても試みられる日の來たらんことを祈らざるを得ない。(藤田)

雜報

○里昂に於ける本邦生絲

一九三四年に於ては前年に引きつゞき日本生絲は顯著なる進出をなし、リオンに於て其第一位を占めた。從來支那絲や伊太利絲を使用してゐた機業家は、本邦生絲を以て代用することの可能なるを究め漸次其使用を馴致した結果ではあるが、幸に本年好況であつた織物に適合する生絲であつたから、價格の低廉と相待つて歐洲生絲と支那生絲を壓倒することが出来た。

日本	一九三二年	一九三三年	一九三四年
伊國	四八五、六三九	六〇一、四四五	一、六三三、五九九
支那	五四八、八七七	六〇七、〇五四	二二六、三五四
廣東	四三三、元九	七〇五、四〇九	二六〇、四九二
	二二二、六七二	二六一、九八八	二八九、四四五

この表に見るやうに一九三四年には非常な躍進であるが、この結果伊太利生絲に影響を及し一時輸入制限の聲もきこえた位であつたが九月以後環境好轉して今日に及んだ、米國向の日本生絲は主として絹靴下製作といふ單純な方面の需用で

一毛 七十七

あるが、リオンは高級織物の本場であるから、生絲の品質を吟味する故に、今後需用の方面に應じて良品を供給しなくてはならぬであらう。

○四川省の富源

四川は古來天府と稱し物産豐富氣候は熱帯に近く農田は年三回の收穫あり、金銅錫鉛等の鑛産があり全國經濟上極めて主要の地位を占むるも惜むらくは地勢環境の特殊な關係で政局常に不安また全力を生産に伸ぶることが出来ぬ、只幸に國人近來開發西北の夢を大にするに至り四川に目をむけるものも多くなつた、其全面積は四〇、二六三、四平方料にして各省第七位、人口は七千萬と稱す、地廣く人多く消費も大で輸出入が多い、民國十七年輸入八、二五〇〇、〇〇〇元輸出五五五、五〇〇、〇〇〇元であつたが同二十二年には輸入三八、九〇〇、〇〇〇元輸出三〇、九〇〇、〇〇〇元に激減した、大體に衰勢に向ふてゐる輸出重要品たる、綿、桐油、鹽、藥材、夏布、烟葉、紙などもすべて不振である。

四川の地理上生産に利用しうべきもの即ち石炭、鐵、石油水力等の基本産業からみると、四川の石炭の埋藏量は山西の七千百億噸、湖南の九百億噸について第三位をしめ八百〇五億噸といはれるが、土法で採取するに止まつて利用不足である、金額も亦黒龍江について第二位、石油は盆地の中區に分布し嘉定牛華溪の附近では石油井四つあり掘鑿して百餘丈に至れば煤氣噴出、二三百尺の高さに上り石油を噴出すといはれ自流井は古來有名である、水力では多山の地で長江其他の

諸江南北に錯綜し、水流急にして河床の傾斜大なるが故に灘と瀬にとむ、高崖瀑布の水力は利用される日を持つてゐる。

其物産には桐油の如き民國近來輸出品中最も價値ある貿易品であり、其輸出量は次第に増加し全國産出の四〇%、千二百萬元にも達してゐる、種桑に適する土地だから育蠶の歴史も古い、故に絲廠二十餘家に及び三萬擔の生絲が出來、江蘇浙江の産よりも上等である、又四川は産米の地で水田旱田、五九一、四九五、〇〇〇公畝である、四、九七五、二五二戸の農民は全省人口の六九%弱である、産鹽に關しては全省面積の四分一人民のよつて生活をなす者數十萬人に達し年産額六百萬擔であるが日下不況でこの方はさう盛んではない、新興工業として苛性曹達、硫酸、セメント等の製造がある、其他天然のもので發展されざるものは多い。

四川の鹽は非鹽である、電氣分解でナトリウム原料がとれる、曹達に化すること容易であり、これらは陶器、玻璃、製紙、染色、漂染等の工業に重要な原料となるから大規模に鹽井を利用したいと思ふ。

硫酸は硫黄からつくるのだが四川には硫黄の鑛山が多く川東の四縣及び華瑩山等に産する、セメントの原料たる石灰、粘土及石膏は四川の産がよい。

要するに四川には利用すべき原料は豊富なのだが政治機構が完く平和な世を作るに至らば恐らく四川は漢時の富強を恢復するに至るであらう。

○最近支那の燐寸工業

燐寸は支那現代新工業の一で其歴史は数十年しか立つてゐない、光緒二十二年から一時は日本燐寸が獨占したこともあつたが馬關條約の結果、日本人が各地で燐寸工場を起したのを見て支那人の利權回收熱を刺激し四川にいちはやく燐寸工場が出来、光緒三十一年に北平に丹華公司がたち、宣統元年には天津にも出来た、民國以來大に發展して現在八十九工場がある、あまり多數出来たので生産過剰となつた、且つ工場は山東に密集し青島だけに十三工場もあるといふ工合で、産地の分布がよくない、資本の最大な大中華會社は三百六十五萬元にも達するが多くは一萬元内外で力も小さい民國二十三年以來新税率で舊率の一倍半にも上つたところ、青島の燐寸のごときは洋式機器貨物だといふので輸出税を免がれるために一度大連に輸送しこんどは大連から天津、烟臺、其他へ密賣するやうになつたので、統制された方の燐寸は一向賣れず燐寸統制に困まつてゐる。

日本其他の外國からの輸入は、支那國産品に壓倒されて一向涉々しくなく、故に一時は數百萬兩からの海關税をうけたものが、昭和七年三十萬海關兩となり、昭和九年には七萬海關兩に激減してしまつた、そこで内地の燐寸の生産過多をしのぐために目下販賣がやかまし論議されてゐるけれども、支那のことだから賦税もあるであらうし、どうも前途は明朗を缺くやうである。

○海拉爾の畜産

ハイラルは興安北分署の中心で、普通

ホロンバイルともいふ、興安北省の全人口僅に六萬、それがすべて家畜及毛皮の取引で生活してゐるのだから、北滿の大豆に比すべき重要品は畜産である、家畜数は馬一八、五一七、牛一一、二九〇、羊六九九、三〇九、駱駝五、四二九、其他六三、五二五である、綿羊最も多く、馬と牛之につぐ、一人平均の家畜は一六六頭で、ホロンバイル放牧地では貧者猶よく數十頭を有し、富裕なものは數千頭である、

羊皮は最重要輸出品で冬季出廻が毛の密生した上等品、夏剪毛したのは剪査皮といひ下等である、死羊皮は一段悪く獨乙に輸出される、烏爾順河、伊敏河、哈拉哈河、海拉爾河の流域を主産地とし一九二七年までは米獨へ輸出された、防塞用具に適し北滿での必需品で一牧上等一圓、下等五十錢の廉である、加工せるものは高く五圓も出せば飛切となる、これは現在不況の價である、十月から十二月まで上等品四萬枚一月から二月迄中等品一萬枚、三月に下等品五千枚位出廻る、康徳元年は米國の不況で出廻激減した。

羔子皮、流胎子皮といつて生後一ヶ月以内又は流胎した仔羊の皮は良質のものは貴い、春季寒さがきつていから流産死亡するので、四月から六月に出廻りが多い、美はしい黒いのは加工して綴合されると一著分七十圓乃至二百圓になる、但し一枚の値は羊皮上等の値段五圓位である、剪査皮は値がやすから自家用の褲子ケツにする、又これを鞣して靴や手袋にする七、八、月に出廻り四萬枚に達する、山羊皮も絨毛を去り加

工してドーハンニューバをつくる、冬期六七千枚を出す。

牛皮は少い乾皮一布度、一等品二十圓、生皮は其五分の二、三萬枚を産する、馬皮は大部分は死馬である、馬肉は食はない、二つに分け前截子皮、後截子皮としてうる、一枚二圓乃至四圓五十錢一萬五千枚、

狗皮は上等一枚十二圓、下等四圓五十錢、十月頃毛が揃つたとき屠殺する、加工染色する一千二百枚、

猫皮は二、三百枚で兎皮と一緒にうる。

興安嶺の熊の皮は、オロチヨンの狩獵である、大型四十圓小型二十圓、精製しなほさなくてはならぬ。

狼皮はケレン河附近、ツアングンノール湖の南アルグン河の北に多い、大一牧二五圓、小一牧一二圓、冬季に出廻はる、鹿皮は五圓位、黄羊皮は五十錢内外この野生の黄羊は冬季美味だから好獵家にとられるのである、獾は伊敏河其他の河にゐるが生皮一枚七〇圓内外。

羊毛は呼倫貝爾の著名産である、大正十四年一布度大洋十二元乃至十六元もしたが今日は五圓五十錢位に下落した、蒙古東部の羊毛はハイラルに集中するから、北鐵ではこゝに洗毛工場、壓搾工場を設けた、減少しても一年に十萬封度は集まる、駝胎毛は春季脱毛を集めたもので一年に千五百布度乃至二千布度が集まる、ハルピンに送つて外套の内綿に供する。

其他いろいろの畜産品すべてハイラルに出廻る、昭和四年

露支抗爭以來、滿洲里には出ないでハイラルにくる、外國への輸出は毛皮と羊皮で十月から四月までに取引され、今日では露國經山をやめて、ハルピンから奉天、天津、上海へ向けるものと、沿鐵各都市から直接ハイラルに買込にゆくものがある。米國が第一の顧客で獨逸、日本これにつぐ、大同二年米國からの申込で天津國民銀行がハルピン支店の手を通じて毛皮類を買占めたため一時好景氣になつたが、昨年になつて火の消えたやうに舊狀に復した。

但しこれまで治安上の心配で不景氣と相俟つて民力疲弊しきつてゐるけれども、匪賊がなくなつたら益々多くの毛皮が出るであらう、しかし何分廣汎の地で交通不便であるから匪賊の絶滅は容易でないが少しく時日をかせば見込は十分である。

○察哈爾の農業

民國二十年、二十三年省政府調査によれば全省人口 約一、九〇〇、〇〇〇人 三九四、〇六七

農民戸數 二六二、六五三戸—三〇九、一〇九ともある。

農民人口 一、四九七、七七六人 或一、六〇七、三六七

どうも戸口ともに確實でないが、この百五十萬に近い農民は地主一六％自作農三四％半自作農二六％小作農二四％であつて一戸當耕地面積千畝以上のもの五、四七四戸、八萬人に達する、農は三年輪作の粗放農業で施肥除草は全然行はず、牛馬によつて六人家族で一戸當五千畝は藥に耕される、平均五十二畝で生活してゐる、農作物は稻、小麥、大麥、高粱、小

米(稗の類)、玉米(粟?)、糜子、馬鈴薯、大豆、黑豆、豌豆、綠黃豆の類で小米の産最も多い、十數年前筆者が陰山山脈の南、玄武岩臺地の上の薄い土の上に青くつくられてゐた小米の畑をみたが、多くは收穫不良のものであつたけれども、この小米が省内で第一の主要食料であるらしい、粉にひいて、煎餅などにして食ふのである。米は穀物の總名であるから、米の字をみて日本の米と同一視してはならぬ、張家口を境として口内では谷子、高粱、小豆、口外では小米(稷麥ともかく)小麦、豌豆を主産物とする、五十二畝の面積からの一年の収入は僅に二百十二元である、それとも人口少くして土地の廣い所であるから、察哈爾の農民には生色がある勞賃は每人毎日二十仙である、口外では小作農は住居其他一切を地主たる蒙人から供給されて、其收穫を折半するといふことである、農家は副業として牛、豚、馬、羊、鶏をかう、就中豚は三五、八六五、羊は二、七六三、四〇〇頭、牛一〇四、馬九五、騾六一、驢一七四、鷄二、五五〇、などといふ報告があるが、どこまで信用してよいかわからない、しかし綏遠や張家口の景氣は山東の德州あたりよりも遙に元氣がある、しかし民國十四年頃から土匪横行で農業も衰頽してゐるらしい、口外の既墾地四萬九千頃、未墾地五萬頃、可墾地として蒙人盟旗のもの二百七十萬頃を剩すといふことである、とにかく廣い牧羊國となる見込は十分であらう。

○邦品進出問題

日本の最近に於ける貿易の進展は大に

諸外國を驚かしニューヨークランド諸州知事團は大統領に對し、左の如くのべた。

新英蘭の紡績の窮狀をマサチューセツツ州の例にみると、一九二三年には斯業の従事者約十一萬四千人、賃銀總額一億五千百萬弗であつたが、一九三三年には夫々四萬五千人及三千百萬弗に減じ、又紡錘數も十五年前には約三千七百萬であつたが今日は六百萬に減じた、速に日本製品の競争を阻止しなくてはならぬ、就ては輸入綿製品に對し、米國內の製産費と同等の額に更に一割を加へた事關稅を課し、尙賸債不履行國の輸入品全部に、同様の禁止的の措置をとるやうにしてほしといつたが、米國の棉花週報などは毎日のやうに日本品進出の衝動的報告をなし世を驚かしてゐる、しかし日本の米棉買附といふことは感謝してゐるので右のやうな無茶な關稅引上を主張はしない、四月十二日、米國大統領が新英蘭五州知事及其代表者を引見した時に、大統領は「日本綿布の輸入が近時頓に増加したことは事實なるも其輸入量は一九三五年一月中に約三百三十萬平方ヤード、二月中に四百八十萬平方ヤードで假に右の程度の増加を持続するとしても、一九三五年度の總輸入は四千九百萬平方ヤードに止まるべく、これは米國の一九三三年度全産額の僅に七厘にすぎない、陳情者の述ぶるが如き脅威は無い、目下の所日本品に制限手段を執るの理由は認めない」といつたといふが何れにしても日本品の進出は世界各國の問題となつた。

通商局の報告によると歐洲經濟界の權威者は、邦品の進出について左の如くのべてゐる。

「凡そ現在の世界に三つの異なつた經濟組織がある、第一は歐洲大陸の經濟組織で、生産條件依然舊態を脱せず、合理化の實効も充分でなく無駄な費をなす組織である、第二は英、米、即ちアングロサクソン系の經濟組織で大規模の會社組織又は組合組織を根本とし、且コオペラチーフの如き制度で生産條件に改良を加へたもの、第三は所謂極東方面の制度である、第一の大陸と第二の英米とは仕事のやり方もちがひ社會上の組織の相違もある、例へば佛國などは土地は自己の所有で、收穫は個人のものでなく自家のものとして農家から市場へ擔出するが、英米では組合が發達し、各箇の農家は農業上獨立組織でなく、生産は合同組合でなされる、各地方に合同經營があつて生産、販賣、消費等の組合で生産費を軽減するから穀物なども廉い、現にカナダのケベックで麥一俵四十二法であつたが、佛國では百四十三法もした、そこで佛國は米國産小麥に對し原價の二倍の輸入税をかけた位であるが、大陸と英米とのこの生産の差は國民の習慣や社會組織、生産條

件に關係するところふかく早急に改められはしない、しかしいづれ大陸にもこの組合制度が出来て英米と一致する價格が出来るやうにはなる、もしこれが出来なければ、大陸の農業は死滅する外はない。

つまり經濟組織の相違で物價は不均衡となるものであるが歐洲大陸と英米とは共通した生産組織があるから之を同一程度に導くことは出来る、しかし極東の生産條件は全く之と異なり、歐米の目下のなやみはさうした極東の生産物の物價の不均衡である、應急手段として關稅引上げ位では到底この不均衡より来る脅威を防ぎきれないと考へてゐるらしい、猶歐洲人の特に苦痛とする所は、日本が自己の得意とする生産を限られたる種類の商品に止めないで、製造工業の全ての部門に對し驚異的發展をとげ凡ての種類の歐米品に對して競争を開始したことである、このまゝで進めば歐米は日本品に對し共同防衛の手段を講ずるだらうといふのである。

事實どこまで、日本品が進出しようやば明ではないが、これは日本人の正に覺悟せねばならぬ要點ではなからうか。